

入職 1 年目から現場で活かせる!

こころが動く 医療コミュニケーション読本

著：中島 俊



竹村 崇 大阪公立大教授・作業療法学

コミュニケーションに迷うならば 手に取ってほしい 1 冊

医療において、コミュニケーションは基盤となる知識および技術である。どれだけ確実性の高い医療技術があったとしても、それを施術してその後のサポートを行う医療従事者に対する納得と信頼を得られなければ、対象者はそれらの技術は選ばないかもしれない。また仮に選んだとしても、医療従事者に対する不信は、対象者の心身の予後を悪化させる可能性もある。これらの観点から、医療者がコミュニケーションを学ぶことは、エビデンスや知識・技術を学ぶことと同様、非常に重要なものであると考えている。

しかしながら、医療者におけるコミュニケーションについては、養成校などでも特化した授業が少なく、また経験的に実施してきた先人も多いため、エビデンスを基盤としたコミュニケーション技術に対する教育はいまだに確立されていない。一方、情報化の時代がさらに加速する昨今、医療事故やミスに関する報道が一気に加熱することで医療に対する対象者の不信感が過去に比べて膨らんだという社会的背景もあり、コミュニケーションや接遇に対する必要性がより一層重視されている。

そういった背景の中、医療者に対して「コミュニケーションは何なのか」、「今自分が取っているコミュニケーションの問題

点はどこにあるのか」、「そしてそれらを改善するためには何をすべきなのか」を過去の豊富な研究を基盤にわかりやすく丁寧に解説しているのが、『入職 1 年目から現場で活かせる! こころが動く医療コミュニケーション読本』である。

本書の素晴らしいところは、先行研究で調査されたエビデンスを基盤に読者の現在のコミュニケーションを振り返らせて、それらを認めてさらに改善するための方法が論理的に示されている点である。さらに学術用語だけでは理解が困難なニュアンスについては、いくつものシチュエーションと会話という Case を通して、具体的にどういった発言がどのような問題を孕み、改善の余地があるかなどをわかりやすく解説している点も、理解を促す役割を果たしている。

卒前・卒後のコミュニケーションを見直す際に、これほど系統立てて、論理的にコミュニケーションについて論述された書籍は少ないと思われる。学生・新人からベテランまで、自身のコミュニケーションに迷いがある方は手に取ってほしい 1 冊である。

